

30周年記念に際して

柳ヶ瀬 勉

電気化学協会九州支部30周年を心からお慶び申し上げます。平成2年11月開催の記念会で頂きました、九州支部関係の資料を拝見していますと、ほんとに色々なつかしいことが思い出されました。歴代支部長も、初代からずっと懐かしい名前が続いてまして、一人一人の方々がはっきりと記憶からよみがえってきます。

私にとって最も強く印象として残っているのは、福岡での全国大会の開催でした。第44回大会は、九大の箱崎キャンパスで行われ、懇親会は「ちかえ」でした。参加者が100名以上だったので、ぎっしり座布団をしきつめた所で、料理にアブツテカモやオキュウトを特別に出してもらい、余興に博多ごまの曲芸がありました。第51回大会は九大の筑紫キャンパスで行われ、参加者の予想を上回って多く、各会場とも活発な講演が続き、ミキサーはキャンパス内のホールで行われ、これも当日申込が多くて盛会でした。

それから、支部行事の一つの目玉である「工業物理化学講習会」も、どのようなテーマを選ぶかが大変でした。参加者を確保するには魅力あるテーマにしなければならず、今、昭和36年から平成2年までのテーマ一覧表を見ますと、夫々の時代を反映して（あるいは先取りして）苦心された内容がひしひしと感じられます。

私にとって電気化学協会九州支部は、電気化学という学際的な学問のために、色々な分野の方々と知り合いになれたということで、公私ともに大きなプラスだと思っています。全国大会開催も多くの専門分野でマンパワーが充実していますので、非常に心強く、すべてがスムーズにできました。

電気化学協会も、益々学問の裾野が広がって、その上に多くの高いピークが生まれつつあるのは、ほんとに心強い限りと思います。九州支部も、今後40周年、50周年と、今まで以上に大きく成長することを楽しみにしています。終わりに、九州支部での色々な行事に、清山先生の力添えが大きかったことに対し、改めて感謝の意を表します。